

第272号（2023年3月号） / 2023年3月1日発行

来年度予算で市民要求の実現を！ 市議選では市民派市政を実現する候補者を！

社保協、陳情書提出

2月21日から3月27日まで、2023年度狛江市予算を審議する第1回定例会が始まっています。こまめ社会保険推進協議会（社保協）では、昨年に加盟7団体の共同要求を市に提出しましたが、コロナ前まで行われてきた要求についての市担当者（課長クラス）との懇談が持たれなくなってしまい、3月議会での予算決定後にやっと文書で回答が来るという状況が続いています。以下、社保協の2点の要求についてお知らせします。

社保協では市長あてに補聴器購入助成と学校給食無償化の要望署名を提出しました。

補聴器補助の要望に対しては、市長から2月10日付で回答が届きましたが、▼対象者が多い▼補聴器は買って慣れるまで3ヶ月くらい訓練が必要だがやめてしまう人が多い▼費用対効果を考慮する必要がある▼財政状況をふまえて国・他市の動向も注視しながら調査・研究してゆく＝やらないという回答でした。訓練のためのケアセンターをという要望には補聴器メーカー・販売事業者に相談せよ、国に対して保険適用を求めてという要望には、補聴器購入は保険給付の対象ではないので保険適用の要望を挙げる予定はないというにべもない回答でした。

今、多くの自治体で補聴器購入補助が行われています。遅れている多摩地区でも三鷹市について府中市でも4月からの実施が決まり

ました。他市は、すでに動き始めています。なぜ先駆けて実施しようとしないのでしょう。

3月議会の予算討議に向けては、次の陳情書を提出しました。

- 1）小中学校給食費の無償化を求める陳情書
- 2）難聴者の補聴器購入に対する補助を求める陳情書
- 3）「消費税の適格請求書等保存方式（インボイス制度）の導入中止を求める意見書」を国に対して提出を求める陳情書

給食費無償化について、すべての子どもたちが、給食費の心配なく平等に給食をたべられるようにするためにも、保護者の給食費負担を軽減することが求められています。全国では無償化を実施する自治体が250自治体を超えると報道されています。東京都内でも葛飾区、北区、品川区、荒川区、中央区、台東区、世田谷区、足立区（中学校のみ）、奥多摩町、檜原村、御蔵島村、三宅島村、利島村など島部は以前からやっていたなど無償化が進んでいます。4月の統一地方選挙でも一大争点になるとみられます。

市は予算案に23年度から市立小中学校に通学中の第3子以降の給食費を無償とすることを盛り込んでいます。一歩前進ですが、対象となるのは約140世帯だけです。ぜひ小中学校全員の無償化の実現を望みます。

予算議会の結果は追ってご報告します。

市議選まで1月半

市議会議員選挙では、市民の生活と権利を守り、住民が主人公の住民自治を打ち出す候補者を、1人でも多く狛江市議会に送り込まなければなりません。さらに岸田政権と対決する政治家を市議会へ送り出すことが、狛江市民の平和への意思を示すこととなります。

2月22日に開催された立候補説明会には33名が参加したということです。改選される議席は22、3人に1人が落選という大変厳し

い選挙です。すでにポスター貼り出しや、街頭宣伝に多くの予定候補者が声をあげています。

期日前投票を入れれば投票日まで1ヶ月半です。「豊かな会」が推薦する予定候補者にぜひ議会で活躍してもらうために、日頃のつながりだけでなく、一歩踏み出した働きかけが必要です。応援してくれる人の輪を広げて、知恵を出し合って、SNSを活用するなど新しい取り組みにも挑戦しましょう。

豊かな会が推薦する市議会議員立候補予定者

豊かな狛江をつくる市民の会では、2023年度総会報告の通り、「豊かな会が掲げる“市民本位の狛江市政”の基本方向」について合意し、豊かな会として推薦を決定した5人の日本共産党立候補予定者と確認書を取り交わしました。ご紹介いたします。



荒木てつ

鈴木えつお市議からバトンタッチ、市政に挑戦する荒木てつです。

狛江で育ち、教師33年。楽しくわかる授業、子どもの自主性を大事にする教育、教育環境改善をめざす組合活動にとりくみ、平和憲法を広める地域の運動にも参加してきました。

岸田内閣のもとで、大軍拡と大増税一くらしと平和、民主主義がおびやかされています。狛江市でも、国保税の大幅値上げや、市民の願いを無視して中央図書館の分割・移転が強行されようとしています。私は、不正を許さず市民が主役の市政へ全力で頑張る決意です。

1962年生まれ。市立三小・二中、桐蔭学園高校、東京理科大卒。私立学校の数学教師33年。職場に組合を結成、書記長、委員長歴任。家族は妻と長女。狛江探鳥会会員。



重国たけし

共産党狛江市気候危機打開・SDGsまちづくり推進室長の重国たけしです。豊かな会で10年以上世話人をしています。前職は共産党の月刊誌『議会と自治体』編集部。活動地域は、東野

川全域、岩戸北1・2丁目、和泉本町1(1～34)・2丁目。

いま政治に求められるのは、憲法を踏みしめる大軍拡・大増税ではなく、賃上げ・消費税減税とインボイス中止・学校給食無償化などで市民の暮らしを支えることです。暮らしと平和を守るたたかいの先頭に立って頑張ります。

矢野市民派市政の到達点が崩されつつあります。市民が主役の政治の根幹「市民参加と協働」の後退を許さず、図書館の分割移転ストップ、気候危機打開、市民の生きづらさに寄り添う市政の実現へ全力を尽くします。



岡村しん

(現3期／党市議団副幹事長)

この4年間、東日本台風やコロナ禍により、みなさんの命・健康・暮らしが脅かされてきました。

災害対策で市に要求した強力な排水ポンプ設置や自動起動機能付き防災ラジオを実現しました。コロナ対策は保健所の復活や検査の充実とともに、コロナ感染やワクチンの後遺症の相談窓口の設置を市に求めてきました。引き続き皆さんのいのちと健康、暮らしをまもっていくために全力でがんばります。

1978年東京都生まれ。狛江三小、二中、農大一高、青山学院大学卒。診療所事務主任、労組委員長を経て、2011年市議初当選。現在、建設環境常任委員長、議会報編集委員会副委員長。岩戸親睦会会員、狛江三小おやじの会会員。家族は妻と2男。



宮坂良子

(現4期／党市議団長)

「市民の方の願いに少しでも応えたい」—この思いで「生活なんでも相談」を15年間、毎月とりくんできました。「給料が上らない」「年金は下がり、医療費が2倍」など、切実な声が寄せられています。介護保険や就学援助の拡充、学校給食費無償化、国保税引下げなど求めてきました。暮らし、平和を脅かす政治から、安心して暮らし続けられ、人権が守られる政治への転換めざしてがんばります。

1950年新潟県生まれ。2007年市議初当選、4期目。渋谷代官山郵便局勤務、新日本婦人の会中央委員、狛江市立旧四小・三中PTA学級委員、市議会副議長、社会常任委員長、総務文教副委員長歴任。現在社会常任副委員長。家族は夫と長女。



西村あつ子

(現6期／党市議団幹事長)

私は1期目から子どもの医療費無料化の拡充を繰り返して求めてきました。今期は小学生の医療費無料化の所得制限撤廃と、低所得者層の高校生の医療費無料化を要求し実現することができました。コロナの長期化で毎議会市民生活支援について取り上げ、市独自の地域経済持続支援金や大学生等への給付金、市民食堂で学割等を実現することができました。

1966年東京都生まれ。こだま幼稚園、旧四小・旧八小、三中、都立高校卒業後、電気会社、デザイン会社を経て1999年から狛江市議。狛江市議で初めて在職中に子どもを出産。現在、議会運営委員会副委員長、総務文教常任委員、多摩川衛生組合議会議員。市議会副議長、保育園父母の会役員歴任

統一地方選挙

4月16日(日)

告示

4月23日(日)

投票

会計担当より

「豊かな狛江をつくる市民の会」団体会費の変更と今年度会費納入状況

団体年間会費につきまして、1996年の会の発足時に10,000円と設定してお納め頂いてきました。団体によって所属する会員の減少などのため、減額のご希望があり、1月の世話人会で検討し、2022年度分から、**5000円**と設定することにしました。

おかげさまで、2月半ばまでの今年度の会費は個人会員として56人の方から130,000円いただき、団体会員として3団体から40,000円を納入いただいています。

1月28日の総会で、支出として通常予想される支出の事務所費や会報印刷発行費などの他に次回の市長選挙に向けての準備金も用意することを決定しました。

会員として登録いただきました100人を超える方々のうち、まだ会費をお届けくださっていない個人会員の方や団体会員の担当の方につきましては、郵便振込やお知り合いの会員の方にお届けいただく方法などにより納入くださいましたら幸いです。

郵便振替口座番号：00140-3-727253

豊かな狛江をつくる市民の会

都政転換をめざす呼びかけ人会議の学習交流会で 狛江の図書館分割・移転問題報告

2024 年都知事選での都政転換に向けて「市民と野党の共闘の実現で都政転換を」めざす呼びかけ人会議の学習交流会が 2 月 2 日、東京都千代田区で開かれました。同会議は、浜矩子同志社大学教授、永山利和日本大学教授など有志が呼びかけ人となってつくったものです。代表呼びかけ人の五十嵐仁氏は開会あいさつで「市民と野党の共闘が実績をあげている。都政の問題点を明らかにし、より革新的で民主的なあたらしい東京都を生み出すステップにしたい」と訴えました。市民からの報告が行われ、杉並、世田谷、江東、新

宿、練馬、葛飾、品川、太田の各区、三多摩、町田、狛江の各区市から運動と課題が出され、とても盛りだくさんの発言があり、統一選挙後の呼びかけ人会議へ、大きな跳躍台になりました。

永山利和先生から、この学習交流会に狛江の図書館移転のことを報告して欲しいとお声かけがあり、報告文で提出、永山先生に代読いただく予定でしたが、参加者発言が多くかつ長引いたため、報告の趣旨を極々短縮し報告していただきました。以下は提出した報告文です。（周東）

市民参加と市民協働の条例をふみにじる中央図書館分割・移転

ちょっと待って図書館移転連絡会責任者 周東三和子

狛江市には、2003 年に制定された「市民参加と市民協働の推進に関する基本条例」があります。この基本条例には長い前文があります。市民が中心になって市民参加で作上げた条例というのは初めてで、策定に携わった市民、市長、行政担当者の思いが込められているということでした。一部紹介します。「狛江のまちに「新しい風」を！ そのような思いをこめて、私たちはこの条例を定めます。「新しい風」は、市民と自治体の信頼に基づくパートナーシップから生まれます。そのためには、まちの主体である市民が自らの責任と役割を自覚して市の行う活動に積極的に参加するとともに、市民公益活動を自主的に行う様々な団体と行政組織が対等な立場でまちの発展のために取り組むことが求められます。そしてそのことは、行政のありかたそのものを、より市民に開かれたものに変えていくことでしょう。」まだ続くのですが、市民が主人公となって市政を進めていくためにこの条例を作ることが謳われています。

けれども現在の松原市政になってから、この基本条例を踏みにじるような事例が発生しています。一つは、市民の声を聞かずに、市民活動の最も身近な施設である中央図書館の分割・移転を進めようとしていることです。もう一つは基本条例の肝ともいえるべき「協働」の対象である市民公益活動を行う団体に、市民と営利企業を加えようとしていることです。

1 点目について報告します。

狛江市の中央公民館と中央図書館は、もともと老朽化した市民センターの増改築問題として、2014 年に始まりました。その内容がリフォームだけで済まそうというものだったため、市民の抗議により撤回され、市と市民の協働で公民館・図書館のあり方を含めて考えるために「市民センターを考える市民の会」が作られました。市と契約を結び1年かけて、学習、調査、検討が行われて 2016 年に「市民提案書」としてまとめられ市に提出されました。その後この提案書が軸になって市が建築コンサルタント業者に増改築の調査を委託、全面改築から一部移転案まである報告書が提出されました。その間、市民側からも CLT 木造縦増築案を提案するなど、市と市民の間で話し合いが進められてきました。2020 年 3 月に、5つの増改築検討プランのどの増改築案が望ましいかという市民アンケートが行われ、現在地での増改築を望む回答が7割を占めました。

ところが、市は突然それまでの話し合いを打ち切り、2020年8月、市民アンケートの提案にはなかった新図書館分割・移転案を含む「市民センター改修等基本方針」を庁議にはかり「決定」、9 月 1 日広報で発表しました。私たちは「ちょっと待って図書館移転連絡会」を作り、市長への要請と、(1)市民合意のない「狛江市民センター改修等基本方針」を一旦保留し、(2)使いやすい

市民センター(公民館・図書館)の増改築を、市民参加・市民協働で再検討すること、の署名活動を始めました。4200筆の署名を順次市長に届け話し合いを申し入れましたが、市長は「基本方針」は決定したことだから話し合うつもりはないと懇談を拒否し続けています。「基本方針」に沿って「基本構想」の策定作業を進め、ワークショップ、パブリックコメントを行い、「市民の皆さんの理解は得られた」と、基本計画の策定に進もうとしています。

しかし、「基本方針」そのものに、中央図書館を分割・移転するという内容である事、市民の声を聞かずに「参加と協働の基本条例」に反した決め方をしたという2つの問題があります。「基本方針」の策定には市の担当部局(公民館、図書館、教育委員会)の意見すら聞かずに市長部局で決めてしまったことも明らかになっています。

基本方針の中央図書館の分割・移転とは、移転先の新図書館が狭いため、そこは大人向けの「静謐な図書館」とし、現在地には子どもが騒いでもいい図書コーナーを残すという、中央図書館としての役割を全く果たせないものです。市民からの反対意見は説明会、ワークショップ、パブリックコメントなど、あらゆる場で強く出されているにもかかわらず、「基本方針」に反する意見は全て無視され続けてきました。私たちは、より多くの市民に何が行われようとしているかを知らせ、引き続き中央図書館分割移転計画反対の声を挙げていきたいと考えます。

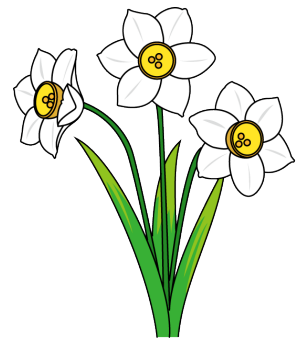
また、この問題は議会で野党議員がなんども取り上げ追及してきましたが、なぜ当初計画案になかった中央図書館を分割・移転するという信じられない案に突如変えたのかという点については、論点をすり替えてまったく答えようとしません。

議会で共産党議員が、市長はなぜ市民の声を聞かないのか、議会前の各党の予算要望に対する懇談を今回共産党と無所属の1議員に対しては行わなかったのはなぜかと質したのに対し、市長は「市政を共に推進していく人の声は聞く」と、市の方針に反対している市民の声は聞かないかのような、驚くべき答弁を行いました。また「中央図書館の分割・移転について基本方針決定前に、条令に沿って市民参加の手続きを行なったのか」との質問に、企画財政部長が「その件については市民参加はやっていない」と答えると、市長が「施設を作る場所については市民参加の手続きは必要ない」といい出だすなど、市民参加と市民協働の条例をないがしろにして推し進めようとする態度が強く出されています。

多数与党により、議会の市政に対するチェック機能も弱まっており、市長が提案するものには黙って賛成し、市民の陳情や野党の予算組み替え動議などには反対意見も述べずに反対するなど、目に余るものがあります。まずは4月の統一地方選挙で、チェック機能を果たせる議員を選出することが重要になっています。

このような市長の姿勢を反映してか、形式や規則をたてにとった行政の対応が目立ち、市民活動に支障をきたす場面も増えてきているように感じられます。

市民参加と市民協働の基本条例に今一度立ち返り、自治体を主権者のものに取り戻す運動の必要性を強く感じています



ちょっと待って図書館移転連絡会では「図書館のチラシを作成し、全地域に配布しています。また、昼休みの市役所前(22日)、粕江駅北口(24日)で宣伝、チラシ配布、署名を行いました。まだ図書館の分割・移転を知らない人がいて、立ち止まって話し込んでいく姿も見られました。「市民の皆様にご理解していただいた」と言えるのでしょうか。

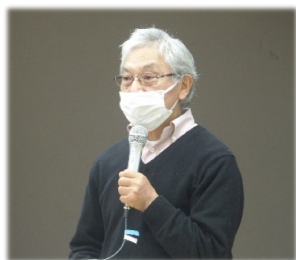
市は3月議会で議論される来年度予算に、基本計画・基本設計の予算を組み込んでいます。連絡会では3月8日(水)から12日(日)に開催される「公民館のつどい」にパネル展示で参加し、現状を皆さんに知らせる予定です。(周東)

3月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。
 ※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、320部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
2日(木) 13時30分～ 14時	東京土建狛江支部会館	「マイナーカード」学習会	こまえ社保協
2日(木) 14時～16時	東京土建狛江支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
3日(金) 14時～15時	狛江駅前広場	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
3日(金) 18時30分～ 20時30分	調布たづくり映像シアター	ちょこみな第13回トークライブ 菱山南帆子さん	市民連合「ちょこみな」
9日(木) 15時～16時	狛江駅前	9の日行動 ＝駅前署名・宣伝行動	戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会
11日(土) 15時～16時	狛江駅前	フラワーデモ	お花を持って参加を！
16日(木) 14時～ 15時30分	中央公民館 第2会議室	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
22日(水) 15時～16時	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部などが中心。第4水曜日。
23日(木) 14時～ 15時30分	東京土建狛江支部会館	戦争なんてイヤだ！全体相談会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
26日(日) 14時～ 16時30分	中央公民館 第4会議室	半田滋さん講演会	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
27日(月) 14時～16時頃	みんなの広場	拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
28日(火) 9時30分 ～11時頃	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』4月号の製本・仕分け作業	ぜひ！手伝いにきてください。

※コロナ感染状況によっては中止になる場合もあります。



森住卓さん「福島 風下の村の人びと」講演会・写真展

原発と気候危機を考える粕江の会 西尾真人

1月16日～31日、中央公民館2階ショーケースで写真展を、2月5日(日)

の午後、講演会を開催しました。講演会は二階堂まりの司会で始まり、主催者を含め42名の方に来場いただきました。いまだに帰還困難区域である浪江町津島地区・避難住民を密着取材したフォトジャーナリスト森住卓さんの90枚以上にわたる映像の迫力に圧倒された2時間でした。帰りたくても帰れず、荒れ果てていく住まいと田畑、加害者である国と東電を相手に訴訟に踏み切った、その悲しみと辛さと怒りが痛いほど伝わってきました。終わりには甲状腺がんになった当時の18歳以下の子どもたちが訴訟に踏み切った声を聞かせていただきました。アンケート回答は29通、全て記述欄に記入されていました。その内から3つほど紹介します。

「写真を見ながらお話をしてくださったことで臨場感を持って聞くことができました。福島の人々の想いを聴くと、胸が苦しくなり、こんなことは2度と繰り返してはならないと思います。ガン増加と被ばくの関係が無いというのは本当にひどい話だと思いました。原発事故は

終わったのではなく、事態の深刻さは進行しているという言葉が印象的でした。」(30代)

「○福島の人々、浪江町の人々の＜生活＞が破壊されている状況が良く分かりました。国や東電が真剣に責任を果たそうとせず、原発再開に向けて現実を隠そうとしていることにハラが立ちます。○甲状腺がんとの因果関係を科学的医学的にはっきりさせる取り組みが必要と感じました。」(70代)

「もう福島は終わったと思っていましたが、今、現在も苦しんでいる人々がいるのはとてもショックでした。それなのにまだ原発に頼ろうとしていることは許されません。」(70代)

森住さんからは「皆さんに福島の実態を少しでも知っていただけてとても有難いです。」との返信がありました。



「九の日行動」寒風の中 敢行

2月9日(木)午後3時～4時 粕江駅北口

この日は陽射しがあつたものの風は冷たく、プラカードや署名用紙を持つ手が凍える程でしたが、東京土建粕江支部の皆さんをはじめ18人が集まり、宣伝と署名集めをしました。

岸田内閣が2023年度の防衛予算案を6兆8219億円とすることを決定し、アメリカからトマホーク巡航ミサイルを調達するなど、反撃能力に必要な装備をそろえるため、来年度から5年間に防衛費を現行比1.6倍の43兆円とする《大軍拡、大増税》を計画しています。これに反対し、くらしを守れと訴えました。

「大軍拡・大増税反対」の新署名が21筆、従来からの「9条改憲NO!」が5筆でした。

**大軍拡・大増税反対！
市民に優しい政治を！
駅前リレートーク&市民デモ**

4月2日(日)

午後2時 粕江駅北口広場
リレートーク後 和泉児童遊園から
市内デモ

主催：戦争なんてイヤだ！粕江市民実行委員会

森住卓講演
「福島 風下の村の人びと」
DVD 上映会

日 時：3月11日（土）午後2時～
場 所：中央公民館 地下ホール
2月5日講演の上映を行います。
聴き逃した方、もう一度聴いてみたい
方、初めて知った方、ぶらり“の方、
全て歓迎！

マスクの着用をお願いします

原発と気候危機を考える粕江の会

春の学習会

戦争を起こさせないことはできるの？

～外国からの脅威があると言われるが～

講師：半田滋さん（防衛ジャーナリスト）

日時：3月26日（日）14時～16時30分

場所：中央公民館第4会議室

参加費：500円（学生・障害のある方 無料）

主催：平和憲法を広める粕江連絡会・こまえ九条
の会

連絡先：小俣 03-3488-1437

粕江の自然



初雪の翌朝（2/11）多摩川堤に行って富士山・丹沢を写したが、鳥がいたとは
後から気づいた。

石川 巖（中和泉在住）